

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520579

研究課題名（和文） 貴族院多額納税者議員の研究

研究課題名（英文） A Study of Members of the House of Peers Selected from among Large Taxpayers

研究代表者

小林 和幸 (KOBAYASHI KAZUYUKI)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：00211904

研究成果の概要（和文）：本研究では、広島県、岐阜県、香川県などで多額納税者議員の関係史料を調査収集した。また、貴族院内で多額納税者議員を率いた貴族院子爵議員谷干城の関係史料の収集及び整理を行った。その結果、多額納税者議員互選における「調整」の事例を見出し、地域選出の議員として衆議院議員との連携による政治活動を明らかにし、さらに明治後期には院内会派が多数派を形成するため、会派への勧誘競争が激化するなど政治的に比重を増すに至る政治状況を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this studies is to reveal the role of members of the House of Peers selected from among the large taxpayers.

It is thought that their political action left little impression on the House, but a large number of historical documents on them in Hiroshima, Kagawa and Gifu prove that their action was of importance at the House of Peers .

Moreover, I listed Visct.Tani Kanjyou Papers,who was the leader of the members in the House of Peers, and investigated the Papers.

As a result, the significance of the role of the House of Peers is clarified.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、近代史、政治学、帝国議会、貴族院

1. 研究開始当初の背景

本研究は、帝国議会開設後の貴族院多額納

税者議員の政治活動を明らかにし、明治期を中心にして、その政治的な役割について検討しようとするものである。従来、貴族院多額

納税者議員に関する研究は、十分に進んでいるとは言いがたく、互選人名簿を中心に分析して地主制などとの関連で言及するか、もしくは、選挙制度としての「互選」について分析したもの、あるいは、「互選」の検討を通じて地方の政治状況を分析したものがほとんどであった。

一方、彼らが、貴族院議員として、如何なる政治的活動を行い、またどのような役割を担ったのかという点に関しては、一部の伝記的研究の中で触れられているものを除くと等閑に付されている状況であった。

このような研究状況の背景には、多額納税者議員の政治的な役割についての一般的な低評価があると思われる。すなわち、多額納税者議員には、多額の国税を納めるが故に、貴族院議員になりうるという政治的「特権」を有する特権階級であるが故に、特権階級のみの利益追求に偏り、国民の利益には無関心であったろうとする否定的先入観が存在し、それが故に研究対象とすることすら避けられ、したがって、そうした先入観が再検討される機会を持たなかったのではないと思われる。

また、従来の議会政治研究では例外的な研究はあるものの中央政治中心に、すなわち藩閥政府と政党の動向が研究の中心的課題と目されその分野での研究は格段に進んでいる反面、その背景にある地方政治の重要性への着目があまり充分ではなかったが故に、地方の代表者としての「議員」を地方史料との関連で論ずる事が比較的少ないことも挙げられる。

さらに、従来の研究では、多くが貴族院と衆議院が対立的に描かれていたため、その両者を結ぶ役割を持つ存在に対して目が向かなかったことなどがあると考えられる。

2. 研究の目的

しかし、前述の貴族院議員多額納税者議員評価は、前述の通り研究の不十分性がもたらしたものであって、研究の意義が否定されるものではなく、かえって本格的研究の必要こそが求められる。貴族院多額納税者議員の実証的再検討により、従来の研究は再評価すべきものと思われる。

したがって、本研究では、まず、多額納税者議員が地方選出議員であるという点に着目

して、地方所在史料の分析による地方代表者としての性格の検討、府県選出の衆議院議員との連携の解明、さらに会派所属の変遷などを通じて貴族院内の他の有爵議員や勅選議員との関係を検討する。

こうした再検討を通じて、従来、特権階級の利益追求に偏り国民の利益に無関心であるかのように認識されがちな多額納税者議員について再評価を行い、多額納税者議員の貴族院内での地位と役割を考察する。

それにより、ひいては貴族院の役割についての再検討するきっかけがもたらされるであろうし、また、帝国議会の実態を明らかにする上においても示唆を得ようとするものである。

3. 研究の方法

本研究では、貴族院多額納税者議員の関係史料を収集することが重要である。

そこで、『貴族院議員名鑑』などを使い、多額納税議員の出身県、経歴を網羅的に一覧表にした上で、地方の多額納税者議員関係史料の所在を確認した。史料の所在が確認できた地域を訪問して、その史料調査を行った。その際、多額納税者議員の互選過程、地方政治との関連を示す史料、国政運営に関わる史料、及び貴族院会派関係史料を収集することに努めた。

また、多額納税者議員と関係が深く、多額納税者議員を率いる事となった有力貴族院議員の活動を究明することなくしては、多額納税者議員の貴族院内での実際の活動を追及することは困難となる。したがって、多額納税者議員を率いる有力貴族院議員(具体的には、貴族院子爵議員の谷干城)の関係史料を谷干城の御子孫から許可を受け、その整理及び史料の検討分析を行い、文書目録を作成することとした。

それらの史料調査を地域の文書館や博物館等と協力しながら行い、さらに、国立国会図書館憲政資料室所蔵の近代政治家の個人文書史料などとあわせて検討を進めた。

また、国立国会図書館法令議会資料室の『帝国議会貴族院事務局報告』や「請願文書表」を利用して、多額納税者議員が紹介議員となることが多い「請願」について分析するなど、前述の目的を達成するための考察を行った。

4. 研究成果

地方所在の多額納税者議員の関係史料については、広島県（八田徳三郎、橋本吉兵衛関係史料、澤原為綱・俊雄関係史料）、岐阜県（松原芳太郎関係史料）、香川県（鎌田勝太郎関係史料）において多額納税者議員の日記や書翰といった史料収集を行う共に、山形県（山形大学、山形銀行）、青森県（青森県立図書館、東奥日報社）などに出張して、関係史料を調査した。これにより、多額納税者議員の互選過程の実態解明に関する有意義な史料、多額納税者議員と政党政治家・官僚などとの政治的連携関係を考察するための史料などを得ることができた。さらに、国立国会図書館憲政資料室において、多額納税者議員関係史料の調査、同法令議会資料室において帝国議会の請願関係史料の調査を行った。

こうした史料調査を通じて、多額納税者議員の互選の実態に関するいくつかの事例が明らかになった。すなわち、明治期においては、互選資格者が各府県納税上位15名に限られていたため、多額納税者議員互選資格者の間で、あらかじめ「調整」が行われる事例が多く見られる。その調整は、多額納税者の互選資格者間において、地盤とする地域などを考慮して議員就任の順番が決められる例や政治的な志向を同じくする互選資格者が提携して派閥を作り他派と競争しながら自派閥の連続当選を計るために議員を順に回す例（広島県などの例がある）、円滑に互選を実施するため「予選会」を開き事前に当選候補者を決定する例（岐阜県などの例）、また七年間の議員在職期間内であっても、「病気」を理由に辞職し次の多額納税者に議員を譲る例（青森県にあった例）などがある。なお、一議員が数期に亘って当選し続けるまれな例（香川県）もみられた。

このように議員互選過程では、府県において名誉職的な位置づけがなされていると推察される一方、当選後の政治活動では、地域社会との関係において、多額納税者議員にも地域代表としての役割が期待されており、郡県の領域変更問題や産業振興の地方要求については、衆議院議員や知事と連携して活動する実態が明らかになった。その際、多額納税者議員は、異なる政党に所属する衆議院議員の調整役を担ったことが推測される例が

見られた（広島県選出の多額納税者議員澤原為綱の例）。また、貴族院に提出される請願の多くは、多額納税者議員が紹介者になっているが、その紹介は、選出県の住民からのものを対象にされる例が多数見られる。こうした点も、地域代表としての役割を反映するものと考えられる。なお、こうした多額納税者議員の府県住民代表としての政治意識の存在は、多額納税者議員に衆議院議員経験者が多数含まれることにも現れているであろう。

さらに、貴族院議員としての院内の地位は、有爵議員や勅選議員に圧倒されている印象であるが、議会開設以前から政務調査のために多額納税者議員独自の集会を持ち、議会開設後も、たとえば、初期議会の政治問題である地価修正問題について多額納税者議員が集会（第五期国会同志会）を持ち、政策実現に向けて他の貴族院議員に働きかけるなど積極的に活動している。こうした集会は、その後も続けられており、政治活動の拠点とすることも日清戦争前後の時期に試みられていることが明らかになった。

また、多額納税者議員は、貴族院内の会派に所属するが、日清戦争以前の初期議会においてはどちらかという藩閥政府よりの会派「研究会」と、藩閥政府に対抗的な会派「懇話会」に多く所属する二極分化が見られ、明治三〇年の改選以後は、多額納税者独自の会派を衆議院の政党にも影響され設立する動き（「朝日倶楽部」や「丁酉会」の例）が見られるが、明治四〇年代頃から既存の会派は、会派所属議員を増加させ多数派を形成するため、多額納税者議員を加入させるための勧誘運動を熾烈に展開する状況が明らかになった（特に茶話会と研究会が、従来土曜会に所属した多額納税者議員を自派に勧誘する例が顕著であった）。こうした貴族院内の会派が、多額納税者議員を取り込もうとする背景には、多数派形成のためという前述の目的の他、日露戦後の国民の政治参加の気運が高まる中で、貴族院内では、国民代表としての側面をもつ多額納税者議員を多く有することが、会派の公益性を担保するために必要と考えられたことを示唆すると思われる。

また、貴族院子爵議員であった谷干城は、上記の貴族院内政治会派「懇話会」の領袖であったが、その関係史料について子孫の谷家から史料を借用して史料を整理し、目録作成を行った。谷の貴族院議員の政治活動は、多

彩に亘り、それは、それまでの谷の政治的な経験を背景とするものであったため、谷の政治思想を伝記的に研究した。谷の政治姿勢には、貴族院は、必ずしも政府擁護を行うのではなく、国家的な視野に立ち、政府批判にも積極的でなければならないとの主張があるが、これは、貴族院の位置づけを考える上でも重要である。それは、従来、貴族院は、藩閥政府擁護のための機関と認識されることが多かったが、谷の主張は、それに反して、貴族院の役割を政府監視に求めようとするものであるからである。また谷が領袖を務める会派「懇話会」は、近衛篤磨らの「三曜会」と提携することで貴族院内の過半数に迫る大会派であった。したがって、谷の政治姿勢は、貴族院認識に、再検討を促すものになると思われる。

こうした谷の政治姿勢に同調する多額納税者議員も多かったが、たとえば、日清戦後の重要な政治問題となった、地租増徴問題では、谷は多額納税者議員の期待を受けて、彼らと連携して反対運動を展開している。その後も谷は、増税反対運動を続けるが、それは、一定の多額納税者議員の支持を得ることになり、会員の維持に力があつた（谷の主導する会派「懇話会」は、明治三四年「朝日倶楽部」と合併して「土曜会」となった）。

なお、史料整理の上、目録を作成した「谷干城関係文書」は、国立国会図書館憲政資料室に寄託されることになり、一般の研究者の利用に供されることが可能となった。史料の公開により、今後の幅広い貴族院研究が行われる契機ともなると考えられる。

また、平成二一年度より香川県において「鎌田勝太郎関係文書」の整理に着手することになった。本関係文書からは、多額納税者議員の政治活動や貴族院改革問題に関する有意義な史料が見出された。数年後の史料目録の完成を目指し、本研究課題の期間終了時も史料整理を継続中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①小林和幸「谷家所蔵「谷干城関係文書」目録並びに解題」、『青山史学』、第27号、pp75～150、平成21年、査読無

[学会発表] (計4件)

①小林和幸「明治人としての谷干城」於：谷干城没後一〇〇年記念シンポジウム—明治人とは何か— (青山学院大学)、平成23年5月21日

②小林和幸「一研究者から見た日本近代史料の収集と整理について—史料目録の新しいかたちを考える—」、於：政治史料連絡会議(国立国会図書館)、平成21年9月3日

③小林和幸「谷干城と近代日本—「谷干城関係文書」を通じて—」、於：谷元臣氏所蔵「谷干城関係文書」小展示会・シンポジウム (青山学院大学)、平成21年4月18日

④小林和幸「貴族院創設の理念と明治期の貴族院」、於：日本政治学会 (明治学院大学)、平成19年10月6日

[図書] (計2件)

①小林和幸『谷干城 憂国の明治人』(中央公論新社)平成23年3月、242頁

②小林和幸「第6章近代初期の日本官僚制—人員統計から見た明治期の「官制改革」を中心に—」(平田雅博・小名康之編『世界史の中の帝国と官僚』(分担執筆)、平成21年、223頁 (pp157-194))

6. 研究組織

(1)研究代表者

小林 和幸 (KOBAYASHI KAZUYUKI)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：00211904